

サービス

米Verizon、音楽フェスティバルでSnapchat 5G AR体験を提供

Verizonは、Snapと提携して音楽フェスティバルの参加者が互いにバーチャルで交流する機能「Governors Ball Connected Lens」を提供した。現地でも5G端末を利用するVerizon顧客はフルバージョンのAR体験を利用でき、4G端末での利用やWi-Fi接続時は縮小版を体験することができる。[イベント終了後](#)、Verizonは、参加者の6割超を占めるVerizon顧客が、3日間の会期中14.5TBものデータを使用したと報告（昨年から38%増加）。5G端末利用者は、ミリ波とミッドバンドによる5G網にアクセスすることで、最大3Gbpsの超高速でフェスティバルでの体験を共有することができた。

ARにより他の参加者と共同で音楽に合わせて動くステッカーなどのグラフィックを用いて会场上空をデコレーションし、シェアできる



プライベート5G/ローカル5G

韓NAVER、Samsungと法人向専用5G網事業展開に向け、自社ビルにローカル5Gを導入

SamsungとNAVER傘下のNAVER Cloudは、NAVERの5千名以上の社員が働く第二本社にローカル5Gを導入したと発表した。

下線部分のリンクを開くと、外部サイトの出典、参考記事が表示されます

導入機器・周波数

Samsungのローカル5G向けコア「Compact Core」と、NAVERが免許を取得したローカル5G用帯域である4.7GHzと28GHz帯をサポートする5G無線機を用いている。無線機は、アップリンクの割当比率を最大40%まで確保できる最適化機能を搭載し、アップロード性能が現行の5G無線のほぼ2倍となる。また、NR-DC（New Radio-Dual Connectivity）に対応し、ミッドバンドとミリ波帯の同時接続もサポートしている。

導入背景

両社は、2022年3月にSamsungのプライベート5GソリューションとNAVERのクラウド技術を用いた**法人向けプライベート5G事業をグローバルに展開していく**ことに合意。そのためのビジネスモデル、ユースケースの開拓で協力していくにあたり、NAVER第二本社は実験場となる。

ユースケース

NAVER第二本社では、まず、3フロアに40台の自律走行ロボットを導入し、荷物やコーヒー、お弁当を届けるなど従業員向けサービスを提供する。ロボットはチップセットを内蔵せず、クラウドがロボットの共有された頭脳として動作する。このため、クラウドに接続された数万台のロボットをリアルタイムで制御し、アップデートすることが可能となる。さらに、デジタルツイン、3D/HDマッピング、AIなどの先進技術を適用し、現実世界を再現した仮想空間を作成することで、ロボットが建物内で自律的に移動できるとしている。

Copyright(C) 2022 KDDI Research, Inc. All Rights Reserved.



年内に36階ビル全体を数百台のロボットが行き来するようになる予定

米国政府による5G活用に向けた取り組み

AT&T：海軍のスマート倉庫実現に向けたデモを実施

海軍の5Gスマート倉庫構想実現に向けた国防総省のデモンストレーションに参加し、以下の5Gユースケースをデモ。

- AR/VRによる軍事訓練・作戦の支援
- 倉庫の高精細映像監視
- ネットワークエッジへ拡張したAI、機械学習を用いた部品のリアルタイム検品、分類、データ登録
- ハンズフリーモバイル端末によるARを活用した物品の選別と保管の支援
- 倉庫のサイバーセキュリティ強化

国防総省は2020年10月、5つの米軍拠点で実施する5Gの試験に6億ドルを投じるとを発表しており、今回デモを実施したコナド基地では、物資や資材の特定と記録、保管、輸送などの物流業務の効率化を目指している。

T-Mobile：国防総省へのプライベート5G、MEC提供に向けた戦略的提携を発表

国防総省を始めとする政府にセキュアなプライベート5G、MEC、SecDevOps*に焦点を当てたソリューションを以下の通り提供すると発表した。*開発プロセスにセキュリティの検討を最優先事項として統合するアプローチ

- 提携により、自社のプライベート5GマネージドソリューションとOceus社の米軍向けモバイル網展開の豊富な経験を組み合わせる
- 提供予定のアプリケーションはAR/VR、保守、物流、トレーニングなど
- 国防総省は、軍隊がどこにいても効果的に活動できるように5Gの採用を加速。T-Mobileは、全国規模かつ大容量の公衆5G網も活用して支援する
- 5GとMECの組み合わせにより、データの所在にかかわらず、データの超高速収集・処理が可能

5G SA (スタンドアロン)

Teliaフィンランド、5G SAエリアを拡張

Teliaは5G SA対応エリアを3.5GHzによる5Gエリア全域に拡大した。2021年11月の5Gコア商用化時は20か所に限定されていた。今回のアップグレードにより、これまでプライベート網だけで利用できたネットワークスライシングが公衆網でも利用可能となった。また、消費者は特に屋内で低遅延と安定した通信を体験できる。Teliaの5Gプログラムディレクターは「顧客からのフィードバックは心強いものであり、ユーザはSA網による固定無線を十分な速度を提供する家庭用光ファイバーの優れた代替手段と見なしている」と述べている。

Amdocs、実証実験においてネットワークスライシングの設計から市場投入までが数分で完了

AmdocsとA1 Telekom Austria Groupは、End to Endネットワークスライシングの概念実証を完了した。Amdocsは、概念実証において、ベンダ制約のない、マルチドメインで柔軟なサービス・ネットワークオーケストレーション、シンプルで自動化されたスライスプロビジョニングとライフサイクル管理ソリューションの有効性が確認されたとしている。また、スライスを注文するための顧客向けポータルシミュレーションなどを通じて、5G SAのマネタイズの可能性が紹介された。Amdocsは、スライスの設計から市場投入に要する時間は、数分にまで短縮できたとしている。

5G その他

米AT&T、5Gエリア提供ドローンプログラムを開始

AT&Tは、業界初の5Gエリアを提供するドローンの飛行プログラムをローンチしたと発表した。**ドローンを上空約90mに飛ばすと約26平方kmの範囲で5Gが利用可能**となる。AT&Tは、本件のLTE版を数年前から大規模イベントや災害時に活用しており、5G版が実用化できれば、将来的に**搜索・救助活動などを行う初期対応者を支援できる可能性**があると見ている。現在は、太陽光発電を利用して、数か月間着陸せずに無線で自律飛行させること、オペレータの視界を超えて飛行するBVLOS (Beyond Visual Line of Sight) の試験に取り組んでいる。

AT&T 5G Flying COW® (Cell on Wings) の試験は、ミズーリ州の畑において有線接続ドローンを用いて行われた



6G

北米6G推進団体Next G Alliance、6Gのアプリケーションとユースケースを発表

同団体は、次世代モバイル通信技術を形作る可能性のあるアプリケーションを検討した白書を発表し、以下4カテゴリのユースケースを挙げ、要件と特性を説明した。

1. ロボティクスと自律システム

多数のサービスロボットの協働、障がい者のサポートロボット、鉱山などの危険な場所でのロボット制御

2. 多感覚拡張現実

スポーツドローンレース、没入型ゲーム・エンタメ、MRテレプレゼンス (例: 車の中にいながらオフィスで働いているように振る舞う)、没入型・インタラクティブな教育

3. 分散型センシングと通信 (非地上系ネットワーク含む)

遠隔データ収集、公共安全、ヘルスケア用の体内ネットワーク (ウェアラブル端末、インプラントによる遠隔監視)

4. パーソナライズユーザ体験

ユーザの個人プロフィールや生体認証などのコンテキスト情報に応じた買い物や旅の体験の提供を自動化